

2015 年度活動報告

1. 成城美学美術史学会設立総会

2015 年 7 月 25 日（土）14 時より、成城大学 7 号館 731 教室にて、第 1 回成城美学美術史学会設立総会が開催された。総会での審議内容は以下の通りである。

(1) 会則審議

原案通り承認された。

(2) 役員選出

以下のように役員が選出された。

学会代表：岩佐光晴

委員：相澤正彦、赤塚健太郎、石鍋真澄、岩佐光晴、喜多崎親、木村建哉、津上英輔、山下純照

『成城美学美術史』編集委員：岩佐光晴

学生委員：清水友美、福岡仁

(3) 今後の活動方針についての報告と審議

・本年度の例会は、9 月 18 日（金）に行い、修士論文提出予定者、『成城美学美術史』投稿予定者を対象に行う。来年度は、例会を年に 1 回以上行い、その内の 1 回の 6 月または 7 月に総会を行う。修士論文提出予定者の発表を 9 月開催の例会で実施するかは、今後検討する。

・会則が変更した場合は、会員にメールで告知する。

・従来専攻で行っていた『成城美学美術史』の編集を、本年度より本学会で行う。

2. 第 1 回例会

上記設立総会に引き続き、14 時 40 分より成城大学 7 号館 731 教室にて、第 1 回例会が開催された。研究発表及び学会設立記念講演が行われた。

【研究発表】司会：石鍋真澄（成城大学文芸学部教授）

平野文千（成城大学大学院博士課程後期）

「ホロアン・ソローリヤ《漁の帰り》—ナチュラリズムを中心に—」

佐藤仁（成城大学大学院博士課程後期）

「教皇ウルバヌス 8 世の「正義」：ピアストラ銀貨をめぐる一考察」

篠原聰（東海大学准教授）

「鏑木清方と郷土会の画家たち」

【成城美学美術史学会設立記念講演】司会：相澤正彦（成城大学文芸学部教授）

マシュー・フィリップ・マッケルウェイ（コロンビア大学教授・成城大学大学院客員教授）

「洛中洛外図にわかること、わからないこと」

なお、例会終了後 18 時 30 分より、7 号館地下ラウンジで懇親会が開催された。

3. 第 2 回例会

2015 年 9 月 18 日（金）12 時より、成城大学 8 号館 821 教室にて、第 2 回成城美学美術史学会例会が開催された。修士論文提出予定者及び希望者による以下の発表がなされた。

【修士論文構想発表】司会：岩佐光晴（成城大学文芸学部教授）

青柳文子（成城大学大学院博士課程前期）

「ロセッティのヴェネツィアン・スタイル作品の再評価」

荒井孝則（成城大学大学院博士課程前期）

「新薬師寺と本尊薬師如来坐像について —山林寺院としての可能性をめぐって—」

岡田実沙子（成城大学大学院博士課程前期）

「G. F. ワッツの「表情を隠す」表現の考察」

浜本夏未（成城大学大学院博士課程前期）

「ジョセフ＝マリー・ヴィアン《アモルを売る女》—制作と受容—」

福岡仁（成城大学大学院博士課程前期）

「オーギュスト・ロダンの《生命の夢》について」

【研究発表】司会：赤塚健太郎（成城大学文芸学部専任講師）、山下純照（成城大学文芸学部教授）

清水友美（成城大学大学院博士課程後期）

「明治末期・大正期における半身裸婦像の様式 —白馬会・文展・二科会まで—」

津上英輔（成城大学文芸学部教授）

「芸術と娯楽：コリンウッドの区分を越えて」

なお、19 時より芹生にて懇親会が開催された。